

## 平成 27 年度 第 1 回学校協議会議事録

○開催日時 平成 27 年 7 月 1 日(水) 15 時 30 分～17 時 10 分

○開催場所 池田高等学校校長室

○出席者 【協議会委員】

山中伸介（大阪大学大学院工学研究科教授）、萬川幹夫（同窓会副会長）、古田誠司（石橋中学校長）、鍋島浩（後援会副会長）、樋口芳宏（本校OB）、永峰康人（PTA会長）

【事務局（教職員）】

校長、教頭、深江首席、森首席、岡本教務主任、榎本進路指導主事（計 12 名）

○議事進行 教頭の司会により学校協議会開催。校長の挨拶の後、出席者の紹介及び資料説明を行い、その後、山中委員を議長として協議事項に移る。

○協議事項

1. 学校協議会実施要綱 事務局より学校協議会実施要項についての説明。

2. 学校経営計画（校長より説明）

本年度運営に関して、以下の重点項目を中心に詳しく説明。

目指す学校像：「自主・自律・貢献」をお題目にせず、学習や部活・行事等で生徒を育成する際の具体的な指針としていく。

① 「授業で勝負」の理念で、「21 世紀型学力」の育成に挑戦、これからの社会に通用する力を育成する。

- ・アクティブ・ラーニング及び ICT 活用の推進。
- ・自学自習の習慣の定着させるために、生徒のやる気を最大化させる指導方法の確立。
- ・本年度から、教科指導研究委員会を立ち上げ、教科ごとに授業の質の向上を図る。

授業見学・授業研究会の開催、あるいは課題別に研究授業を行い、全体研修を実施。

アクティブ・ラーニング先進校見学、及び教員向け外部研修への参加。

② 「志」の育成と生徒全員の進路保障実現：「目標に対して安易な妥協をさせない」に重点を置く。

- ・高大連携として従来の大阪大学基礎セミナーに加え、大阪教育大学との教職コンソーシアムを開始。

③ 総合的な「人間力」育成

- ・生徒の「部活動と学習の両立（文武両道）」
- ・本年度から朝読書開始。

④ 本校教育に対する理解を獲得する

- ・プロジェクター及び電子黒板の全教室設置完了
- ・本年秋に本館トイレ改修予定。
- ・情報発信（広報）継続
- ・ネットリテラシーの啓蒙：生徒及び教員向けに夫々講演実施。別途保護者にも実施予定

2. 教務主任より近年の入学者選抜改革、平成 28 年度入学者選抜の概要について説明

3. 進路指導主事より 2014 年進路結果説明：新教育課程の受験負担増を背景に、国公立大学から私立大学（特に関関同立）へのシフトが顕著。（関関同立の現役進学者実数は 129 名で過去最高）

合格者数

- ・国公立大学 86 名（2012 年度）→113 名（2013 年）→80 名（2014 年）
- ・私立大学（延数）694 名（2012 年度）→970 名（2013 年）→1079 名（2014 年）

現役進学者数

- ・国公立大学 50 名（2012 年度）→65 名（2013 年）→41 名（2014 年）
- ・関関同立 97 名（2012 年度）→102 名（2013 年）→129 名（2014 年）

○質疑応答・意見交換

(委員) 学校経営計画にH29年度国公立大学合格者30%の目標があるが、具体的な方策は。

(学校) 進路指導に関する3年間のストーリー・計画を含めた進路マップを作成するとともに、各時期に応じたタイムリーな指導を入念に実施する。在校生の実力試験等のデータから、来春以降、更に進学実績を伸ばせる可能性を感じている。

(委員) 土曜日の活用は授業を行っているのか。

(学校) 授業ではなく、例えばセンター試験演習等の講習を行っている。

(委員) 池田高校の入学生徒の偏差値が下がっているような情報があるが、いかがか。

(学校) 生徒の入学成績等勘案しても、下がっていない。インターネット上で無責任な偏差値情報が掲載されていることは把握している。

(委員) アクティブ・ラーニングは良いことであると考えますが、受験生や保護者にその意義を理解してもらうことは難しいと思うので、分かりやすい資料等を作成して情報発信を継続してほしい。

(委員) 生徒が国公立か私立かを決める最終時期はいつごろか。

(学校) 2年の秋に3年次選択科目を決定し、国公立型のクラスと私立型のクラスに分かれるので、一般的にはこの時期だが、3年生になってから変更する生徒はいる。最終は3年夏季休業中あたりと考えている。

(委員) 人間をいかに育成するかという観点から、大学の先(社会)を見据えた教育を今後がんばってもらいたい。

(委員) 中学校校長としては積極的に高校と連携したいと考える中、部活動(陸上部)で連携いただけただ点、大変感謝している。中学生徒に対しては「生徒自身が居場所のある学校を選んでいくこと」を大前提として進路指導を行っており、生徒及び保護者とコミュニケーションをとりながら進学高校を決めている。

どういう社会人として世の中を構成できるかという視点を持ち、将来を見据えて様々な経験をさせながら、進路を決定する池田高校の教育方針に賛同する。

(委員) 部活動をしている生徒は何%か。

(学校) 延べで95%程度。

(委員) 選挙権が18歳になりましたが、何かお考えか。

(学校) 文部科学省の指導に関する方針を見極めつつ対応する。地歴公民科が中心になるが、学校として模擬投票等を含め教育内容を検討する。

(委員) 制服についての規則はあるのか。

(学校) 標準服制度である。当初よりは若干きびしく指導している。

(学校) 今年度から従来のオーストラリア語学研修に加えて、英国語学研修を開始する。17日間の日程で世界中から集まった各国1名ずつの生徒グループによるディスカッションやアクティビティを実施、英語力研鑽は当然ながら、多様性を受け入れて異なる価値観を経験させる内容。参加生徒がどう変わるか楽しみ。この研修は、「グローバル」を感得できる生徒を育成する意義がある。

(委員) 英国研修の対象は何年生で、希望制ですか。

(学校) 2年生で希望制。

(委員) 非常に頼もしい企画。英国の語学研修についても情報発信して、積極的にアピールしてほしい。

計数的PRだけでなく、どのような生徒を育成するのか、という観点から優れた教育を実践してほしい。

(委員) 昨年からはPTAの立場で見てきたが、校長の発信する教育方針に大変満足している。

(委員) 最近、大阪大学では入学当初から心を病んでいる学生が増えてきた。多様な問題を抱え、授業に出席できない学生等、気になっている。大学内で心の相談室等のケアは行っている。この点でも、中高大の連携を密にとっていく必要がある。健全な生徒を育成することが我々の任務であり、大阪大学としては、どのような形でも、申し出があれば協力したい。気軽に連絡いただきたい。

もう一点は、大学でも実践的な英語教育に力を入れ、ほとんどの大学が4学期制にして海外へ短期留学を勧める動きになってきた。阪大工学部で海外留学する学生はまだ10%程度だが、各大学が留学する生徒を増やす努力をしている。また、大学は機能分化を求められ、世界に通じる研究を柱とする大学、地域に生きる大学、特化した専門性を持つ大学等に分化していく。高校生は、単純に大学の偏差値だけで判断するのではなく、大学が何をめざしているのかを意識して、志望校を決定してほしい。

(委員) 現在、心療内科等に通う中学生が増えており、また、その保護者も心療内科に通う人が増えている。時代が変わってきたと感じる。

(委員) 大阪大学では医療部門があり、カウンセリング等多様な学生に丁寧に対応できるようになってきている。大学生になって、大学で癒されるということもある。

以上